

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年2月19日)

里仁第四

5 子曰く、富と貴きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てせざれば之を得とも処らざるなり。貧しきと賤しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てせざれば之を得とも去らざるなり。君子は仁を去りて悪くにか名を成さん。君子は終食の間も仁に違ふこと無し。造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす。

富と貴きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てせざれば之を得とも処らざるなり・・・孔子が言うには、財産と地位は誰でも欲しがるものだ。しかし正しい道で手に入れたものでなければ落ち着かない。

鳩山さんや小沢さんは今頃、落ち着かないでしょうね。小沢さんの奥様にしても、自分の実家が脱税しているのですから、なかなか落ち着かないと思います。

貧しきと賤しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てせざれば之を得とも去らざるなり・・・貧乏とか下賤は誰でも嫌がるものだ。正しい理由もなくそういう身分に落ちたのであれば、その境遇に甘んじていた方がよいであろう。

例えば自然災害にあってそうなった場合は、その境遇に甘んじている方がよいということです。

君子は仁を去りて悪くにか名を成さん。君子は終食の間も仁に違ふこと無し。造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす・・・君子は仁から離れて、どこで名誉を求めたらよいのだろうか(そういうことはあり得ない)。立派な人間は、食事中も仁にあった食べ方をしている。何か問題があって慌ただしい時にも、仁を忘れない。転んでしまった時にも、仁を忘れない。

仁は思いやりとか道徳ですから、食事中や転んでしまった時という表現は理解しづらいと感じます。

6 子曰く、我未だ仁を好む者、不仁を悪む者を見ず。仁を好む者は以て之に尚うること無し。不仁を悪む者も、其れ仁を為す。不仁なる者をして其の身に加えしめず。能く一日も其の力を仁に用うること有らんか、我未だ力の足らざる者を見ず。蓋し之有らん。我未だ之を見ざるなり。

私はまだ本当に仁を好む者、不仁を憎むような人間を見たことがない。仁を好む者は立派な人間であるから、それ以上望むことはない。道徳的によくないことをしていると憎む者も、結果として仁を行なっていると言ってよい。

ここはマスコミを考えればよいと思います。小沢さんは、これ以上不動産を買わないと思います。これ以上不仁を為すことは、マスコミの力によってストップをかけることができたのだろうと理解します。

不仁者であっても、一日くらいであれば自分の持っている力を良いことに使うことがあるであろう。そう思って良いことをしようと思った人が、力が不足しているのだと言い分けをする人間を私は見たことがない。或いは本当に力が不足しているかもしれないけれども、本当に力が足りなくて出来ない人間を私は見たことがない。

思いやりをもって人に接しようと思っていれば、皆、出来るはずだ。それなりの能力を持っているのに発揮しない人達ばかりなので、皆、少しずつ能力を出そうではないか・・・と、ここは理解します。

本日は以上です。有難うございました。